

# 佐賀市 55 歴史探訪

## ほんじょうじんじゃろうもん さる 本庄神社楼門の猿

本庄神社は欽明天皇のころ(539年～571年)に創始されたと伝えられる古い神社で、与賀神社や川上神社と同じく与止日女大神を祭神としています。

この神社の楼門の上に置かれた2匹の木彫りの猿を皆さんご存じでしょうか。今回は本庄神社楼門に置かれた木彫りの猿にまつわるおもしろい逸話についてご紹介します。

この木彫りの猿は、藩祖鍋島直茂が本庄神社を改修した際のもので伝えられています。当初は両手を前で合わせるように作られていましたが、その後片方の手を後ろに廻すように作り変えられたそうです。このことについて、地元には次のような逸話が残っています。

それは、「鍋島直茂が本庄神社を改修して以来、付近の田畑が頻繁に荒されるようになった。ある夜村人が畑を荒らす影を見つけたので、正体を確かめようと後を追ったら、その正体がこの木彫りの猿だった。このため、本庄神社の氏子が集まり、直茂公にこのことを相談した上で、木彫りの猿の眼を潰し、後手に縛り上げたように作り変えたら、その後は付近の田畑が荒されたりするようなことはなくなった」というものです。

この真偽はともかく、古い神社に伝えられる逸話とともに鍋島直茂の人柄を偲ばせる遺産として、一度ご覧になられてはいかがでしょうか。



▲本庄神社



▲楼門の木彫りの猿

### 一口メモ

本庄神社には2基の肥前鳥居があります。そのうちこの鳥居には慶長8年の銘があり、古い造立銘をもつ肥前鳥居として佐賀県重要文化財に指定されています。また、境内の中にある石灯籠も県内にある石灯籠のなかで最も古い造立銘のものとして佐賀市重要文化財に指定されています。

